



医育機関として社会のニーズに柔軟に対応した医学教育の実施、使命感の強い医師を育てる教育を行いたい。



琉球大学医学部長
佐藤 良也 先生

P R O F I L E

Q1. 医学部長となられて、今の率直な感想をお聞かせ下さい。

率直に言って、大変な責任を担うことになってしまったと自覚しています。国立大学の法人化後、大学を取り巻く環境は一段と厳しさを増しておりますうえに、医学・医療も社会的に多くの課題を抱えていると思います。自分ひとりで何かができると思わず、ひたすら様々な意見を集約して課題解決に向かっていきたいと考えています。第一線の医療を支える医師会会員の皆様にも、ご意見、ご指導、ご協力をお願いする次第です。

Q2. 医学部は定員の増加など、医師不足に対応する人材育成の期待を背負っていると思われませんが、その事に関してどう思われますか？

沖縄県と調整のうえ、2名の地域枠の学生定員増を決定し、6月には文部科学省に申請の予定です。ただ離島県沖縄という地域環境をふまえると、2名増が妥当かどうかは議論のあるところです。医学部としての独自の方策を考える必要もあると感じています。現在、3年次への学士特別編入学生5名を受け入れておりますが、この5名の学生を地域枠に特化することなどを考えているところです。また、離島地域への医師の定着をどのように図っていくかという

- 1975年 新潟大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士
- 1981年 琉球大学医学部助教授
- 1987年 琉球大学医学部教授
- 1993年 琉球大学医学部附属地域医療センター主事併任
- 1997年 琉球大学医学部附属ラジオアイソトープ実験施設長併任
- 2001年 琉球大学遺伝子実験センター長併任
- 2002年 学長特別補佐就任
- 2003年 琉球大学研究推進戦略室長併任
- 2005年 琉球大学「亜熱帯島嶼科学」超域研究推進機構長併任
- 2008年 琉球大学医学部長就任

- 専門分野は寄生虫学、免疫学。
- 国の学術審議会専門委員、日本学術会議研究連絡委員、日本学術振興会科学研究費審査委員、沖縄県の科学技術会議委員などを歴任。

課題もあります。医育機関としての大学、医師会、行政が一体となった検討が必要と思います。

医師不足には、特定の専門分野への医師の偏りという問題もあるかと思っています。制度的な問題、過重な医療環境など、困難な課題が多くありますが、医育機関として社会のニーズに柔軟

に対応した医学教育の実施、使命感の強い医師を育てる教育などができたら良いと考えているところです。

Q3. 新臨床研修医制度により、大学における人材の確保が非常に難しくなっていると聞いていますが、実際に如何でしょうか？

新しい臨床研究制度が始まって以来、本学で研修をうける卒業生が激減していることは事実です。先日の九州地区の医学部長・附属病院長会議でもこのことが話題になっておりましたが、他大学もほぼ同じような状況です。ただ、最近、卒業生が母校に戻りつつある傾向であるという意見を多く聞きましたので、今後に期待しています。本学医学部も設置から30年近くたち、同窓会組織も充実してきましたので、同窓会とも連携しつつ基本的には学生が母校に対して愛着心が持てるよう学生との交流に気を配っていきたいと考えています。

Q4. 臨床、研究、人材育成の課題の中、今後琉球大学医学部の展望や抱負などをお聞かせ下さい。

予算や定員の削減、過重な評価主義の導入など、法人化の様々な課題が解決されないままにかなり蓄積されてしまっていると感じています。自助努力だけでは解決できない問題も多いのですが、閉塞感にばかり捉われている訳にはいきません。就任にあたって、カラ元気でもいいから、とにかく元気を出そうと呼びかけました。

臨床面では地域住民の不利益にならないよう、臨床機能の維持、向上に努めることが重要です。研究面では高水準の特色のある研究課題を発展させ、そこに外部資金を呼び込むことを心がけたいと思います。教育・人材育成の面では、卒業生の国家試験合格率をもっと上げること、また希望をもって医学部の将来を託すにふ

さわしい生え抜きの人材を育てることを意識したいと考えます。

Q5. 県医師会に対するご要望がございましたらお聞かせ下さい。

私が赴任した当時（医学部創設期）には、県医師会との表立った交流はまだなかったように記憶しております。その後、卒業生の臨床研修などで活発な協力関係が築かれており、また先日、宮城信雄会長をお訪ねさせていただいた際にも積極的な協力関係について頼もしいご意見を頂くことができました。聞くところによると、県医師会会員の4割近くを本学医学部出身者が占めるようになっているとのことであります。双方にとってプラスとなるような実効性のある協力関係を築いていくことができればと思います。MDでない私には、この点での直接的なお役には立ちませんが、附属病院長の須加原教授を介して積極的に係っていきたいと思います。

Q6. 日頃の健康法、ご趣味等をお聞かせ下さい。

以前は海釣りなどをやっていましたが、今はそんな時間がありません。郷里が北海道なので、年に2、3回帰郷して、熊よけの鈴をぶら下げて溪流釣りを楽しむ程度です。家庭菜園を始めましたが、これも忙しくなると手が届かず、気がつくとき植えたハンダマが黄色い花をたくさん咲かせていて、腹に収まるよりも花瓶に収まるようなことがしばしばです。人間ドックで高脂血症を指摘されたのを機会に、ウォーキングをしていましたが、やはり今は時間がないのでやっていません。メタボリンピック代表選手のような体型になってきたことを気にしているところです。

インタビューアー：広報委員 玉井 修